

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100251		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	グループホーム ウィスタリア		
所在地	北海道釧路市堀川町8番30号		
自己評価作成日	平成23年2月24日	評価結果市町村受理日	平成23年5月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoho-hokkaido.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0194100251&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者様とともに喜怒哀楽を共に感じるにより、その人らしい生活に近づけるため、共に過ごし少しでも多く充実した生活が送れるよう支援しています。
- ・季節の行事参加、誕生会、畑で収穫された野菜を使つての料理等、食べる楽しみを味わっています。
- ・医療連携を密に行い、一人一人の健康状態を把握し安心した生活を送れるよう行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年に開設された当事業所は、医療法人が母体と成って運営しており、開設にあたり「間口を広く」をコンセプトに据え生活弱者や重度の方等どんな利用者をも受け入れる事を旨としています。開設準備期間より職員全員で理念作成に時間を掛け、“自分が認知症になったらして欲しい事・して欲しくない事”“私が認知症になったらこんな暮らしがしたい”等、ワークシートを使用し様々な角度から考察し、『笑顔・安心・熱意』を理念として定め、更に具体的にケア理念を作り上げて共通認識の基、実践に活かしています。開設して1年が経ち、地域との関わりや、それらを含めた災害対策などこれからの取り組みが期待されますが、何より利用者との関わりを大切にしており、生活記録も介護計画と連動して作成し、利用者本位のチームケアに取り組む中で利用者がそれぞれの個性と自立性を発揮し、自分の家としてのびのびと暮らしている様子が伺えます。年度初めに内部研修計画を職員の希望を取り入れながら作成し、外部研修の参加にも積極的に取り組んでいます。会議時には職員が順番に進行を担当し、利用者への理解を深め、運営に関しての提案が活発にされています。事業所内は明るく落ち着いた雰囲気となっており、管理者が作成したパッチワークのタペストリーが優しさと暖かみを作り出しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札の裏に理念のカードを入れている。 朝の申し送り時には斉唱することで、意識統一を図っている。	開設時に職員全員で自分達が目指す介護の思いを込め理念、ケア理念を作成し、玄関、事務室、各職員のネームプレート裏に掲示し、更に毎朝唱和して共通認識に立ち実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の老人保健施設の行事へ参加したり、地域のピアノ教室の生徒がボランティアで演奏会を開催したりと努めているが、ごく近隣の地域住民との交流は町内会もない地域という事もあり、未だ日常的な交流はできていない。	町内会のない地域となっています。利用者は散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、隣の老人保健施設の行事に参加し交流しています。	町内会がない地域ですが、個人住宅は存在しており、個々に交流に努め、協力関係構築に繋げていけるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、入居者の成年後見人である司法書士に出席して頂き、制度について話を聞く機会を設けているが、職員までの周知が出来ていないことや、活用する機会はない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、運営状況の報告や出席者の方々より意見を募って反映できるよう努めている。	利用者家族、隣接町内会会長、地域包括支援センター職員、を構成員として2か月に一度開催し情報交換、事故報告等話し合わせられ運営に反映しています。今年度4月に家族会が発足し、家族会会長・副会長が出席予定となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隣接している地域包括支援センター職員に出席してもらい、日々の活動について報告し、必要時には相談をしている。	生活保護受給の利用者が多く行政と連携を取り情報交換や、相談をしながら支援に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間の防犯対策としての施錠以外は行わないよう努めている。他、学習会を通して職員にも周知徹底を図っている。	身体拘束、虐待に付いて内部研修を行い、理解を深め周知徹底すると共に、管理者は常に注意を払い、職員間で確認しながら身体拘束のないケアに取り組んでいます。防犯の為夜間のみ玄関の施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を通して職員へ周知徹底をし、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に、入居者の成年後見人である司法書士に出席して頂き、制度について話を聞く機会を設けているが、職員までの周知が出来ていないことや、活用する機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書と合わせて、入居のしおりを渡し、説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口を設け、重要事項説明書に明記している。 家族会は今年4月より発足予定。	家族の訪問時に利用者の状況報告を行い、意見、要望等なんでも話して頂けるような関係の構築に努めています。今年度4月には家族の意見、要望表出の機会として家族会が発足予定となっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、意見を募っている。	ユニット会議、全体会議を各月ごとに交互に開催しています。会議の進行を職員が担当制で行い、活発に話し合われています。提案された事柄は検討し、出来る所から改善につなげる等職員の意見を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の行事の企画等にもスタッフの意見を反映させている。必要時に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設前に未経験のものには、法人内の他施設でOJTを行った。 力量に合わせて夜間時間帯の介護のOJTを厚くした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の開催する研修等に参加することで、交流する機会はあるが、相互訪問等は行っていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、本人への説明、本人からの要望などを聞く機会を設けて、懇切丁寧な対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、家族の現在抱える問題やこれからの不安についての話を聞く時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	慣れるまでの周辺症状などに対しては、個別ケアで援助するよう努め、必要時には家族にも協力を得るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は対等な関係を築こうとするも、援助者と被援助者になりがちな現状がある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時の同行や各行事への参加など、適時家族への働きかけを心がけているが、あまり積極的な関わりが困難な家族もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会のご家族と本人の意向に沿って受け入れている。年賀状なども本人の意向に合わせて送っている。 しかし、積極的な働きかけは行えていない。	管理者、職員は利用者の馴染みの関係の継続支援に努め、知人の訪問受け入れや馴染みの場所への外出支援、知人や親戚へ手紙を出す支援等家族の協力も得ながら取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で過ごす時には、自然と親しい入居者同士が集えるよう座席などの配置に配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、家族が来設してくれた事があったが、現在退去の案件が少ないのが現状。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望は、本人主体に検討するよう努めている。	センター方式を活用し、生活歴の把握と共に、日々の関わりの中から希望、要望の把握に努め、意向に沿った対応に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を本人やご家族からヒアリングするよう努めているが、把握困難な入居者もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解するとともに、ケース記録に手職員が把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意見を反映できるよう努めているが、連絡を取る機会が持てない家族もいる。	個人記録の中に介護計画を添付し、介護計画と連動した記録方法を取り、モニタリング時に参考にしながら現状に即した介護計画を作成しています。日報の書式を情報が一目で解るような書式に変更する予定となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で記録が共有できるように努めているが、周知徹底が迅速に行われる事が難しいのも現状である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に適した支援を柔軟にできるように考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用するまでには至っていないが、美術館への見学や地域の音楽教室のボランティア来設等各方面への働きを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が月2回、法人内看護師が週1回来ている。また、定期的にかかりつけ医の受診受けている。	運営母体が医療法人であり、多数の利用者のかかりつけ医になっています。他の医療機関への受診は基本的に家族対応ですが、病状報告等の必要がある時は同行し適切な医療が受けられるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の他施設の職員が週に1回、協力体制のある訪問看護ステーションが月に2回来設し、健康相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状説明や退院時説明に同席し、退院後の生活についての相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期のケア方針についてはご家族に説明している。	利用契約時に重度化した時の対応や終末期に向けた方針を説明し理解を得ています。家族、医療機関、事業所等、関係者との協議が整えば看取りを進める方針であり職員の研修は今年度の計画で進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新任研修で緊急時の対応については周知しているが、実践は行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を予定、実施している。 避難訓練の結果は、運営推進会議で報告し地域への発信に努めている。	職員による夜間想定訓練と利用者を含めた日中1階キッチンから出火想定での火災訓練を消防署の協力を得て行うなど、年2回の避難訓練を実施して火災の対策をとっています。	火災想定避難訓練を実施していますが、その他の災害想定訓練や、避難時持ち出しリストの作成、地域の協力体制作りはこれからの課題となっています。今後隣接する老人保健施設や、地域住民との話し合いの中から協力体制の構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重するために、職員の言動等に配慮するよう努めている。家族に対しても同様に配慮に努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重する為にトイレへの声掛けなどさりげなく行い気を付けています。個人のおむつなども目につかないところに保管をしてプライバシーを損ねないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の思いを聞いたり、その時々で決める事が出来るよう、意向の確認をするよう努めているが、意向の確認が困難な方については、決定しやすい質問を投げかけてしまいがちになる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の基本である1日の流れを目安にしているが、本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院へ行けるよう支援したり、今まで着ていた衣服を着て頂くことで、その人らしさを出せるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を作ることは困難である。片付けなど、個々のできることに合わせて行ってもらっている。	献立は職員が利用者の好みを考慮しながら作成し、調理しています。利用者は、片づけ等の出来る事を行いながら食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを用いて、食事と水分の摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを促し、必要に応じて介助している。 口腔内のトラブルについては、医療連携の歯科医師に相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを用いて、リズムを把握して出来るだけ便座での排泄や、部分的な介助で支援している。	排泄は自立している利用者が多く今の状態を保てるように配慮し支援しています。記録はチェックシートにて全員の記録を取り、リズムを把握して誘導を行うなどの支援体制を構築しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で個々の排泄の状況を把握し、必要に応じて排便を促す食事メニューなどに工夫している。医師との連携で下剤の調整も行っている方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安となる曜日は決めているが、身体状態や本人の意向を尊重し、支援に努めている。 時間帯については、概ね決まった時間での入浴だが、必要に応じて時間をずらしている。	入浴は週2回を基本としていますが、利用者の希望を尊重しています。日時にこだわりのある利用者もおり午前の入浴など希望に沿うように支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間、居室どちらでも休息できるスペースを確保し、自由に休息できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントに現在の服薬一覧を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品などは、本人と家族の意向に沿って支援している。楽しみづくりについては、積極的な働きかけに今後努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい時には、庭の花苗を見に出たり、希望に応じて外食や外出するよう努めている。頻回ではないが、ご家族と外出する方もいる。	日常的な散歩や外気浴など気候のよい時には近隣の公園にお弁当持参で出かけています。また、紅葉を見にドライブに出かけるなど外出支援に努めています。	系列の小規模多機能事業所の車両を借りたり、職員の乗用車での対応のため外出機会が限られています。今後は工夫の中で外出機会を拡大して行く事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を預かり金としているが、入居者によっては希望に沿って一部の現金を自己管理をしている方もいる。 預かり金は本人の希望に沿って使われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をする事が出来る。 お正月には本人の希望があれば、年賀状も出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節感を取り入れる装飾に努めている。	居間には行事の写真や利用者と職員で作られた飾付けなど明るい雰囲気包まれ、大型空気清浄機を設置し、温度、湿度にも配慮されています。ユニット間の階段には管理者が作成したパッチワークが数多く飾られており心を和ませるのに役立っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各場所にソファやタタミスペースを設置し、個々に過ごす事が出来るよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた馴染みの物を使ってほしいと家族へ依頼し、協力してもらっている。	ベットや家具等馴染みの物や、家族の写真や絵を飾り、好みの雰囲気を作りながら本人が居心地良く暮らせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などは車椅子での移動が出来るスペースを確保している。 各箇所には手すりを設置している。		